

豚サーコウイルス 2 型ワクチン接種農場における効果の検証

【 目的 】

豚サーコウイルス 2 型(PCV2)の浸潤状況の違う 2 つの豚舎で、同ワクチンの効果の差について調査し、その効果について検証しました。

【 成績の概要 】

- 材料及び方法 : A 農場の豚舎 1 及び豚舎 2 の飼養豚について、①25~100 日齢時までの事故率及び日増体量、②30~150 日齢時まで 30 日間隔で採材した血清中の PCV2 遺伝子量を PCV2 ワクチンの接種前後で比較しました。
- 結果及びまとめ : ①事故率は豚舎 1 で接種前 4.0%から接種後 2.1%に、日増体量は 501g から 574g と顕著に改善しましたが、豚舎 2 では明らかな差は見られませんでした(図 1 及び 2)。②豚舎 1 では 60 日齢時から PCV2 遺伝子が検出され、その量はワクチン接種前 2.9log10copies/ μ l から接種後 1.16 に有意に減少しました。豚舎 2 の同遺伝子は 120 日齢時から検出され、1.02 と低値でした(図 3)。

豚舎 1 の離乳後早期に PCV2 が感染している場合には明らかな効果が認められ、豚舎 2 の感染が遅い場合には顕著な効果が認められず、PCV2 感染時期の相違によりワクチン効果に差が見られました。

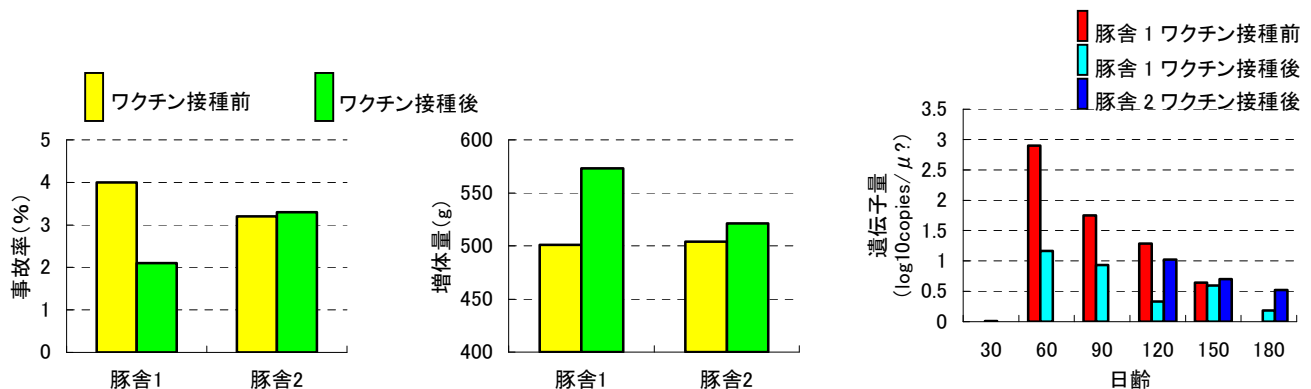


図 1: 事故率

図 2: 日増体量

図 3: PCV2 遺伝子量

【 成績の活用 】

PCV2 ワクチンの効果的な使用(養豚場の PCV2 浸潤状況を調査することにより、PCV2 ワクチンのより効果的な使用が可能となる。)

【 留意事項・備考 】

離乳豚の事故は PCV2 以外の他の疾病や飼養環境も原因となることから、これらについても調査する必要がある。